NeOSU

SCHOOL JURIDICAL PERSON OSAKA SANGYO UNIVERSITY

No. 36

Toward a brighter future!

Different student lifestyle durling the coronavirus crisis

ピンチはチャンスに変えられる

～プライドを持って新しい未来を創ろう～

●大阪産業大学 学長　吉川 耕司

ハイブリッド授業特集

ハイブリッド授業、始動！

一つの授業を、3つの形で受講できる！

ウィズ・コロナ、アフター・コロナ時代の授業を目指して

商学科が取り組む新しい教育

就職支援課特集　就職支援課の取り組み

ピンチはチャンスに変えられる

～プライドを持って新しい未来を創ろう～

●大阪産業大学 学長　**吉川 耕司**

コロナ禍にあって、何もかもが変わりつつある毎日。本学は学生のために何ができるか。吉川耕司 新学長のご挨拶とともに新たな取り組みについてご紹介いたします。

「いい大学」をめざして

令和2年9月、学長に就任しました吉川です。これまでは副学長として、コロナ禍での危機管理担当という職務を担ってきました。ウイルス対策をきちんと続けていかねばという思いは、これからも変わりません。

しかし状況がどう変わっても、私たちには変わらず続けていかなくてはならないことがあります。私はそれを、「OSUプライド」という言葉で表現しました。私たちは本学を、学生も教職員も、誇りとやりがいを持って楽しく歩んでいける、いい大学にしていきたいと考えています。いい大学からは、いい人が卒業していくでしょう。そしてその人たちが、社会の中で頑張ってくれるでしょう。建学の精神「偉大なる平凡人たれ」という言葉には、そんな思いが詰まっているように感じます。

長い時間をかけて、いい大学となること、そこで育まれた学生さんがプライドを持ち、いい人生を歩み続けてくれること。地道で努力の絶えない道のりかもしれませんが、大阪産業大学はその道をずっと歩み続けたいと思います。

どうか私たちを応援してください。ご協力ください。学生を笑顔にできる大学であり続けるよう、私たちは最大限の努力を続けていきます。

学びの質を維持するために

授業改善やキャンパス整備など、これまでと変わらず続けなければならない課題はいくつもありますが、今、新型コロナウイルスの影響で力点を置くポイントが少しシフトしています。

その大きな軸の一つが、ハイブリッド授業の実施です。他大学には、演習系は対面、座学はオンラインで授業を行なっているところが多いと聞いています。それに対し、本学は後期のすべての授業を対面、オンライン（リアルタイム配信）、オンデマンド（録画配信）の三本柱で提供しています。これは全く同じコンテンツを3つの手段で受講できるということであり、実践している大学は少ないと思います。「どこで学ぶ学生に対しても、提供する教育の質を下げてはいけない」というのは、当たり前のようですが、正直なところなかなか大変です。しかし、我々は最大限できることをやっていかなければならないと考えています。

ウィズ・コロナの時代のサポート

今までの大学の授業は、「対面」ありきで確立してきましたが、実際に始めてみると、オンラインにも良いところがあることが分かりました。ただ、我々が考えていたよりも対面授業に出席する学生は少なく、もう少し来てもらうために何をすべきかが、重要な課題だと考えています。

学生たちは、昨今の状況下、経済面での暮らしの危機、授業が受けられない学びの危機、さらに友人や教員などと交流ができないコミュニティの危機に直面し、不安、心配、悩みを感じています。経済面では大学からできる限りのサポートを進め、学びの危機対策としては、ハイブリッド授業を実施しています。コミュニティの危機については、特に1年生に手厚いケアを進めていきます。

また、地域とのつながりも失ってはいけないと考えます。地域企業との共同研究や活動を増やし、地域に開かれた大学としてのスタンスを守り続けていきます。本学の近隣地域には、オンライン対応が進んでいない小規模企業も多いですが、しっかりと連携を進めていくつもりです。

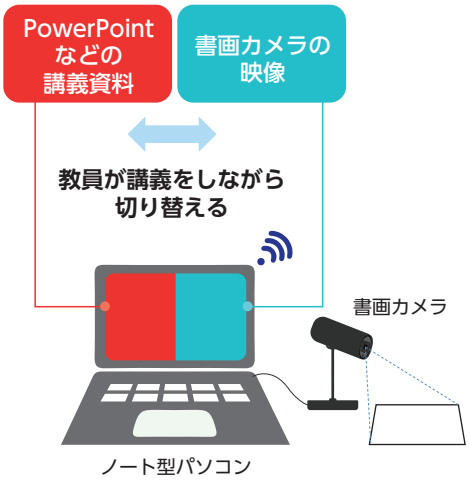
ウィズ・コロナの時代となり、「キャンパスに学生がいて、対面で授業ができ、学生が仲間や先生と話せる」、こんな当たり前のことが実は大切だったのだと気付きました。今、しみじみと学内に人のいない寂しさを感じています。失われた日常を取り戻したい。当然、安全対策は万全、対応は慎重でなければなりませんが、そのなかでも「皆さんをキャンパスで待っているよ」という思いを何とか伝えたい。コロナ禍が収束すれば、学生が大学へ帰ってきてくれると信じています。みんなで、一緒に新しい大阪産業大学を創っていきましょう。

ハイブリッド授業、始動！

一つの授業を、3つの形で受講できる！

令和2年度後期、本学は「対面」、「オンライン」、「オンデマンド(録画)」で授業が受けられる「ハイブリッド授業」を開始しました。他大学ではあまり見られない、画期的な授業形式を導入したことにより、すべての学生の学習機会が維持されています。ハイブリッド授業について、水谷副学長と高浪学長補佐にお話を伺いました。

ビデオ会議システムを用いて
すべて**同じ映像で学習**ができます。



ハイブリッド授業のイメージ

がんばっています！
学生サポーターたち

多くの先生たちを

コミュニケーションの難しさ、楽しさを実感しています

●萬木（ゆるぎ） 絹香（きぬか）さん
工学部電子情報通信工学科4年生
出身高校 私立大阪成蹊女子高等学校

後期前の練習会で気づいたのは、先生方の中にはパソコン操作が苦手な方もおられるということでした。また、日本語の会話に不慣れな外国人の先生もおられ、コミュニケーションの難しさを痛感しました。しかし、やりとりを重ねるうちに、戸惑っていた先生も理解が進み、うまく操作できるようになり、その様子を見ていると、自分のことのように嬉しくなりました。

サポートしながら、私は黒板がきれいに写るカメラを選んだり、先生が違うケーブルを差し込まないようにする方法を考えるなど、授業を進めやすくする工夫を続けました。それらのアイデアは、サポーター全員とグループラインで共有しています。

前期、オンライン受講だけだった頃は、正直モチベーションが下がりました。そういう状況からハイブリッド授業になって本当によかったです。先生に質問でき、顔が見えるのはすばらしいなあと思います。

私はこの活動を通じ、不測の事態にどう振る舞うかをすぐ判断し、動くことが上達したように感じています。将来は高校数学、工業科の教員を志望しているので、今後確実に増えると思われるオンライン授業に触れることができたのが、よい経験になりました。

すべての授業がハイブリッドに

本学は令和2年度後期より、ハイブリッド授業を開始し、すべての授業が「対面」、「オンライン」、「オンデマンド」という3つの形態で実施されています。学生が3つの形態から選んで受講できるという点は、他大学とは異なる大きな特徴で、今までにない形での授業が可能になりました。これに対応するため、150の教室にノート型パソコンと書画カメラが新たに導入されています。

私たちは、5月上旬にビデオ会議システム(Google Meet)の導入を決定しましたが、その後、さらに発展して、対面、オンライン、録画の三本柱からなるハイブリッド授業を実施することを決定しました。7月には後期の方針を固め、8月には本学の充実した情報システムを活用して、実際にハイブリッド授業が行えることを検証。しかし実際に運用するまで、約840人の教員全員が授業をスムーズに進められるのかは不確定でした。

教職員、学生が力を合わせてハイブリッド授業をサポート

本学が提供する授業は全部で約1,500科目あり、最大で同時に100科目が開講されます。それだけに、不測の事態に備えるサポート体制の充実が大きな課題でした。対面授業をリアルタイムで配信しながら録画も行うということが、全ての開講科目でうまくいくのか、また現場でトラブルが生じたとき、どう対処するのかをめぐって、私たちは議論を重ねました。その結果、サポート・スタッフが職員だけでは不足する可能性があると判断し、有償で学生の力を借りることが決まりました。時間に比較的余裕がある各学部の4年生に呼びかけた結果、50余名の学生からなるハイブリッド授業のサポートチームが誕生しました。彼らは教員の個別練習会に参加し、毎日50以上の教室で計250回もの練習をサポートしました。後期授業が始まった現在も学生のサポートは続き、教員から厚い信頼を得ています。

ハイブリッド授業開始の1週目は、開講できない授業が1割程度は発生するかと予想されましたが、1,500科目中でリアルタイム配信に失敗し、休講にせざるを得なかった授業は3科目のみ。その3科目も録画があり、受講生は後からビデオ視聴が可能でした。11月初旬には、ほぼ全科目でリアルタイム配信ができており、授業が見られないという苦情はゼロとなっています。現在、オンラインと対面授業双方の学生がディスカッションをするなど、両方の良さを学生が享受できる体制の構築を進めています。

学生が戻りたくなる、魅力ある環境を準備

ハイブリッド授業が展開されている中で、次なる課題は、コロナ収束に備えて、目下対面授業に出ることができない学生たちがスムーズにキャンパスに戻ってきてくれるように環境を整えておくことです。

私たちは、やはり対面授業こそが本来の学び方だと考えています。大学は、いろいろな人、コトが集まる賑やかで楽しい場所であり、キャンパスで教員と学生が直接会していれば、個性を持った多種多様な教員からさまざまな刺激を受けながら学ぶことができます。

コロナ以降の大学は、これまで以上に本気で質の良い教育を提供しなければならなくなります。「事態が落ち着いたら、すぐにキャンパスに行きたい」と思ってもらえるよう、しっかりと準備を進めなければならないと考えています。

特に来年2年生になる学生に対しては、「元気が出る仕組み」「大学へ来たくなる仕組み」を提供していかねばなりません。教員や友人が楽しくふれあい、ともに時を過ごせるような、大学生にとって成長の糧となる大切な時間を取り戻せるよう、あらゆる手段を講じて取り組んでいきます。

徹底サポート！！

授業が円滑に進むように後方での支援を続けています

●竹田（たけだ） 皓偉（こうい）さん
経済学部経済学科4年生
出身高校　私立阪南大学高等学校

サポーターの中では、学生のまとめ役を務めています。日頃は授業の中でファシリテーターなどを経験してきたので、学んだことが活かせると思い引き受けました。学生が先生に個別サポートを行う事前の練習会では、同時に使う複数の教室のダブルブッキングがないよう、サポーター、先生、教室、講義タイトルなどをパソコンを用いて一元管理しました。

実際の授業では、先生方に呼ばれたら学生が教室に出向いて対応しますが、スムーズに対応できるよう、パソコンで学生の居場所を確認し、出向く教室に最も近い学生が対応するよう指示を送っています。加えて、トラブルが生じたとき、サポーター間のネットワークで対応策がすぐわかるようにシステムを構築・整備しました。11月中旬には、先生方から呼ばれる回数も格段に減りました。今では当初の半分以下のサポーターで全科目に対応しています。

コロナ禍の影響で、学生仲間との交流ができなくなっているなか、サポーターとして他学科の学生と親しく交流できたのは嬉しかったです。また、たくさんの先生方をはじめ、職員の方々と(ハイブリッド授業への)サポートを通し関わっていく貴重な体験ができたことに、非常に感謝しています。

ウィズ・コロナ、アフター・コロナ時代の授業を目指して

商学科が取り組む新しい教育

●経営学部商学科 准教授　中原 翔（なかはら しょう）

新型コロナウイルスの影響下、ハイブリッド形式の授業導入となった秋学期。学生の学び方が多様になり、対面授業のみを進めていた今まで以上に、教員はきめ細かな対応が求められています。学生との親身な交流を続けながら、わかりやすい授業の実現に向け日々努めている各学科の中から、商学科の取り組みと学生たちの姿をご紹介します。

SNS、イベントで心をつなぐ

「大学に来てね」とはっきり言えない現実が続く中にあって、商学科では学生の気持ちが大学から離れないよう、在学生向けのインスタグラムを開設しました（Instagram:@daisan_syougaku）。先輩たちの海外留学体験やこれからの学科の取り組み、オンライン英語研修の話題など、なるべく明るく、モチベーションアップにつながるような話題を選んで掲載していて、学生からのレスポンスは上々です。

一方、学生間ではSNSが盛んで、上位年次の学生は学生同士のフォーマルでないコミュニティを機能させて情報交換しているようです。とはいえ、我々教員は１年生への配慮が必要です。何とか大学に来てもらう機会を増やすため、小グループに分け、全員が参加できるイベントを開催する計画を進めています。また、教務課と連携して、単位履修に関する質問に対応できるシステムを構築しました。

チャットやメッセージ機能を活用

大学においては、人対人のコミュニケーションはとても大切ですが、本、文献から得られるものも大きいと考えます。私は、今回、ハイブリッド授業を進めるにあたっては、シラバスや講義ノート作成に力を入れ、学生が講義ノートと録画を使って、予習、授業中、複数回の復習という形で（＝授業の前中後）、繰り返しの学習ができるように工夫しました。反復学習に耐えられる教材を作ることは大変ですが、私にとっても講義の内容を見直す機会にもなる、非常に有意義な活動です。

オンライン授業では顔が見えないので、その場のレスポンスは分かりません。そこでビデオ会議ソフトのメッセージ送信機能を活用し、送ってもらったメッセージを適宜確認して応答しています。録画を受講するオンデマンド授業の場合でも質問を受け付けています。またリアルタイムでのチャットも行い、対面でもオンラインでも気軽に質問できるようにしています。

コロナ禍が続く今日、観光業界など人の流れはGoToキャンペーンでやや持ち直したものの、やはり低迷しています。一方、物流などモノの流れは非常に盛んです。こういう状況を生きた教材として、商学科で物流やマーケティングを学べるということは、今までにない新しい経験だと思います。

商学科にはいろいろな教員が在籍し、学生と教員がいろいろな意見をぶつけ合い、切磋琢磨できる環境です。それはハイブリッド授業の学習スタイルになっても、まったく変わらないことです。むしろ、さまざまな情報が錯綜する時代だからこそ、きちんと対象を見つめ、学び、考える学問の姿勢を教員も学生もともに実行していきたいと考えています。

学生たちが選んだ それぞれの学び のアプローチ

キャンパスでの受講は モチベーションが向上します

●チン ティ ハイ タインさん

経営学部商学科1年生
出身高校：Pham Ngu Lao（ファングーラオ）高等学校

2020年の4月から大阪産業大学に通っています。高校卒業の後、ベトナムで日系企業に勤務していた時に日本が好きになりました。将来は、日本でマーケティングの仕事を経験し、帰国して飲食に関連するビジネスに携わりたいと考えています。

対面授業を選んだのは、キャンパスが勉強するには最適な場だと思うからです。日本語での授業はむずかしいですが、大学にいれば、すぐ先生に質問したり相談したりできます。授業の合間に先生と、日本やベトナムのことを話すのも興味深いです。

しかし今、対面授業の受講生はごく少数。みんなが大学へ来ないと、あまり話ができないし、友人が作れません。休み時間に友達と話せないのはつらいです。いろいろな日本の言葉、日本の面白いことなどを教えて欲しいです。キャンパスは広くて綺麗で大好きな場所です。正門を入ると「がんばろう！」とモチベーションが上がります。多くの人が早くキャンパスへ来て欲しいなと思っています。

通学時間を気にせず 効率的に学んでいます

●高橋（たかはし） 茉利（まり）さん

経営学部商学科1年生
出身高校：私立四条畷学園高等学校

通学するといろいろな場所で大勢の人と接触することになるので、オンライン授業を受けています。主にリアルタイムで受講していますが、時にはオンデマンドも利用し、わかりにくいところを録画で聞き直します。秋学期の初めの頃は、インターネットがうまくつながらないことがあり、再起動したらスムーズに聴講できたのでホッとしたことを覚えています。万一の場合も、録画を後から見られるのだと思うと安心です。

今、興味を持っているのは簿記の授業です。簿記はどんな業界でも役に立つビジネスの基本知識なので、少し難しいと感じますが、頑張って日商簿記の資格を取ろうかなと思っています。

ようやくオンライン授業に慣れてきたし、時間を有効に使って勉強できるのは便利でいいなとは思いますが、コロナが収束したら、やはりキャンパスに行って対面授業を受けたいですね。オンラインにもチャット機能があり、対話ができますが、やはり先生や友人と直接話したいです。

自由な時間に繰り返し 学習ができるのが魅力です

●中條（なかじょう） 凌（りょう）さん

経営学部商学科1年生
出身高校：大阪府立市岡高等学校

オンライン授業の空き時間を利用して、オンデマンド授業を受講しています。オンデマンド授業の利点は、自由になる時間が増えることです。一人暮らしなので家事をしっかりこなしながら無理なく学べ、アルバイトにも時間を有意義に使える点は助かります。また、一度受講しただけでは理解しにくいところも、録画を繰り返して見ながら復習することができます。メールやチャットで質問すると、先生からすぐに返事が返ってくるのもうれしいです。

将来の進路の選択肢を広げるため、夏から公務員試験対策講座に挑戦しています。大学のポータルサイトで紹介されている基礎講座に登録して、時間をやりくりしながら学んでいます。

オンライン授業でスタートした春学期。正直なところ戸惑いましたが、秋には対面授業も開講したので、今後は対面での受講を増やしたいと考えています。先生や友人たちと実際に会いたいし、クラブやサークルにも参加したいですね。

1 zoomで開催　就活フェスタ

例年、本学の最も大きな就活イベントは2月に開催していますが、今年は11月19日から12月11日の16日間にオンラインにて開催しました。初めての取り組みに不安はあったものの、210社の企業様がご参加くださり、2116名がエントリー、のべ8000名以上（昨年度比255%）の学生が早期に企業様と接点を持つことができました。大阪産業大学の名物イベントともいえる『鉄道・関連企業業界研究会』も同時期に開催し、今年も他大学の学生100名以上が参加してくれました。

学生からは「オンライン開催だったので参加しやすかった」「就活にはまだ早いのでは、と思っていたけれど遅いぐらいだと気付いた」などの声が寄せられています。令和4年3月卒生の就活は新型コロナウイルスの影響で厳しくなりそうですが、キャリアセンタースタッフ一同、しっかりとサポートしていきます。

7 ワーキングコモンズ内の個別ブースの貸し出し

自宅に「Wi-Fi環境がない」「カメラ付きパソコン等が無い」という学生のために、完全予約制にてワーキングコモンズ内に設置している個別ブースを開放しています。「時間に余裕をもらったお陰で落ち着いて面接を受けられた」「静かな環境の中、集中して面接に望めた」「面接終了後、質問事項などの振り返りが出来て良かった」など学生にも好評です。

2 大阪産業大学 × 大阪電業協会 コラボイベント

大規模な就活イベントが軒並み中止になったことから、キャリアセンター×大阪電業協会のコラボイベントを実施。型にあてはめない、アットホームな雰囲気での進行に参加学生の途中退室者は0名、最後まで22名全員が有意義な時間を過ごしました。

コロナ禍におけるリモートワークへの軌跡

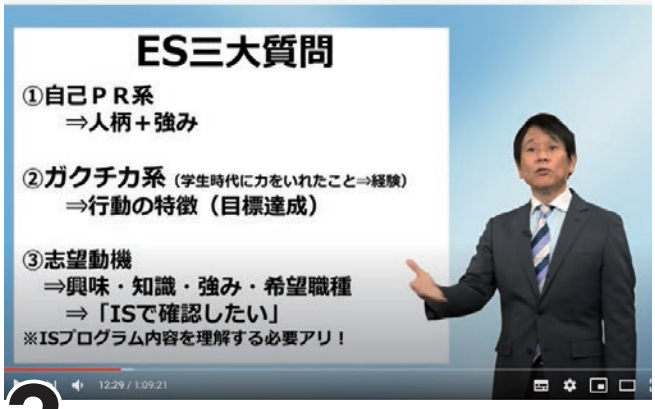
就職支援課の取り組み

どうするコロナ禍　どうする就活

新型コロナウイルスの影響で、就活が変わってしまい、キャンパスに来ることが出来なくなり、困った学生もいます。それに応えるため就職支援課ではさまざまな取り組みを始めました。

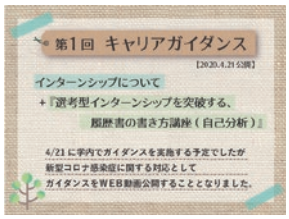
6 キャリアカウンセラーによるオンライン講座

キャリアカウンセラーによる講座は「就活のすすめ方講座」や「履歴書・ESの書き方」「Web面接対策講座」など、各講座を毎月開催。講座では、なぜ企業を知ることが大切なのかを伝え、実際にキャリアカウンセラーがやっている求人検索のやり方を、zoomで画面共有しながら見てもらいます。進路・支援システムから予約でき、「企業研究～求人の見方～」には18名の学生さんが参加。今後も学生の皆さんのニーズに合った満足度の高い講座を実施していきます。



3 ガイダンス動画配信

前期のガイダンス3回とSPI対策講座について動画配信を行いました。「自由な時間に視聴できる」「復習として何度も視聴できる」など学生からも好評でした。



「選考型のインターンシップを突破する
エントリーシートの書き方講座（自己分析）」
URL　https://youtu.be/fQ8rBReeP3w

4 ラインチャット

「就活、どうすればいい？」「履歴書ってどこでもらうの？」など困ったことがあればいつでも答えられるチャットを始めました。チャットは24時間オープンで、ちょっとした質問にも答えます。

5 オンラインで履歴書添削や個別相談

2020年4/1～7/1まで
延べ利用者数
1711件

オンラインにて画面共有しながら履歴書の添削やエントリシートを作成。また、実践的な面接練習もオンラインにて実施中です。

在宅勤務でもサブラインを使用して、学生への電話かけや電話相談に対応しています。『050』から始まる電話番号です。企業面談も積極的に実施しています。

就職支援課からのアドバイスで大満足の就職を実現

横山千夏（よこやまちなつ）さん　明治安田生命保険相互会社 内定

スポーツ健康学部スポーツ健康学科4年生
出身高校　大阪市立汎愛高等学校

多くの企業が、慣例だった対面面接を中止せざるを得なくなった令和2年。そんな状況下でも先輩たちは就職支援課のサポートを活用しながら、内定を獲得していきました。明治安田生命保険相互会社への内定を決めた横山千夏さんにお話を聞きました。

明治安田生命保険から内定をいただき、本当に嬉しく思っています。入社後はファイナンシャルプランナーの資格が必要なので、できれば卒業までに取得したいと、勉強を始めています。就職したら「横山さんが担当でよかった」と言ってもらえるような仕事がしたいです。

就職支援課には令和元年12月ごろからよく訪れるようになり、3月ごろには合同web会社説明会に参加。エントリーシートの書き方などのサポートを受けながらの就職活動でした。面接のアドバイスでは、「横山さんらしさを出せば大丈夫！」と言っていただいたことを覚えています。

もともと営業職志望で、生命保険についての説明を聞くうちに、じっくり人とお話ができて、一人のお客様の人生に長いスパンで関わることができる仕事という点に魅力を感じるようになりました。明治安田生命に就職しようと決めたのは、同社のインターンシップを経験したからです。職場の様子を知り、いい職場だと感じて、ここで働きたいと思うようになりました。面接でも胸を張って「第一志望です」と伝えました。

明治安田生命のweb面接は、5月から6月にかけて複数回ありました。気をつけたのは、相手が聞き取りやすいよう間を開けて話すこと、すっきりした背景の前に座ること、ずっと口角を上げて笑顔をキープすることでした。本番は緊張しましたが、貴重な時間を割いてくださるのだと思い、一生懸命コミュニケーションを取るように努めました。印象に残っているのは6月の最終面接です。それまではエントリーシートに沿った質問への受け答えでしたが、最終は担当の方も私も、素の自分を見せて向き合いました。その場で「春にはうちに来てください」と言われたのが忘れられません。

就職活動が大変だったのは、3月、4月ごろ。コロナの影響で友人と会えなかったからです。しかし就職支援課の方々はいつも親身になって相談に乗ってくれ、時には雑談で気分を明るくしてくれました。また内定を報告した時は心から祝福してもらいました。就職支援課をしっかり活用してよかったと思います。

待ちに待った異文化交流

交流プログラム

10月23日(金)、国際科グローバルコース2年生の留学生交流プログラムが実施されました。コロナ禍の影響で、国際科独自の行事が中止延期となるなか、待ちに待った再開でした。

感染予防に配慮しながら通常とは少しスタイルを変えて、1年次とは異なるテーマでインタビューを中心に取り組みました。生徒たちも本来の目的である異文化コミュニケーションをあらためて体験し、新たな

目標に向けて一歩踏み出す契機になったようです。

10月24日(土)、今年度初めての留学生交流会が実施されました。入学してからずっと心待ちにしていた行事を、ようやく実施することができました。最初に13か国からの留学生が自国を紹介するために用意したパワーポイントの内容を聞きとるところから始まりました。また、グループになり自己紹介を踏まえたアイスブレイクをし、自ら留学生の方々に話をしにいくパスポートゲームを行いました。英語でコミュニケーションをとることにはまだまだ慣れておらず、恥ずかしさも自信のなさも少々見受けられましたが、積極的に話そうとがんばっていました！

終わったあと、「楽しかった」という声がたくさん飛び交っていました。

いつもと違う楽しさを求めて

梧桐祭(文化祭)

11月6日(金)に梧桐祭を開催しました。今年は例年とは異なり、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、模擬店や観客を入れての舞台パフォーマンスは中止となり、制約がある中での実施となりました。

舞台パフォーマンスは3年生希望クラスと文化部、一部の運動クラブのみとし、1・2年生は展示を行いました。舞台パフォーマンスの模様は、各教室へのオンライン配信となりましたので、事前に映像を撮影しているクラスやクラブが多く、それぞれが映像でどう見せるかをよく考えており、直接会場で見るのとはまた違った良さがありました。展示も各クラスともに力作が多く、感心させられるものもありました。

残念ながらコロナ禍の中で縮小された開催になりましたが、限られた環境の中でどう楽しむのかを考えて過ごすことができました。

互いのプレーに大きな拍手とエール　体育祭

10月15日(木)、16日(金)の2日間に分けて体育祭を開催しました。今年度の実施場所は「ラクタブドーム メインアリーナ」で紅組、白組の2チームに分けて行いました。

15日の開会式は、生徒会長の開会宣言に始まり、校長挨拶、吹奏楽部演奏のもとで国旗・校章旗掲揚、選手宣誓はスポーツコースの生徒が全校生徒約2200人を代表して行いました。

競技プログラムでは、吹奏楽部によるマーチングからスタートし、50m走・100m走・150m走(予選)、大玉転がし、鉄人レース、学級対抗リレー(予選)を行いました。例年にはない競技も多い中、生徒たちはとても真剣に取り組み、観客席から大きな拍手が飛び交いました。

2日目の16日は、50m走・100m走・150m走(決勝)、大縄、鉄人レース、学級対抗リレー(決勝)、女子集団演技を行いました。予選を勝ちあがった競技もあり、より一段と生徒の気合も入っていました。

大縄は運動部によるデモンストレーションもあり、これから競技に挑む選手の見本を示しました。応援する生徒たちは、初日に続き大きな拍手で全力プレーをする選手に向けてエールを送っていました。女子集団演技では、フラッグの美しさに観客席の生徒たちは何度も大きな拍手をしていました。

結果は白組の勝利でしたが、生徒たちは相手チームに敬意を表して大きな拍手でたたえあい、今年度も大いに盛り上がった体育祭になりました。

楽しみながら異文化や歴史を学ぶ

中学

ハロウィンパーティー

10月28日（水）、中学1年生・2年生の各クラスごとにハロウィンパーティーを開催しました。一人ひとりが好きなキャラクターなどに仮装をし、盛り上がる雰囲気の中で、英語圏の文化やハロウィンの起源について楽しみながら学ぶことができました。また、各クラスの代表者による仮装コンテストやゲームも行われました。

写真提供：吉田写真館

南の島で味わった大自然と開放感

高校

高2修学旅行

令和2年10月27日（火）出発と28日（水）出発の2班に分かれ、高校2年生が3泊4日の日程で修学旅行に行ってきました。石垣島を中心とした八重山諸島にて、川平湾グラスボート、浦内川桟橋でのカヤック・サップ体験、黒島でのウミガメ放流体験や西表島から水牛車に乗って由布島に渡る体験など、大自然でのアクティビティを満喫しました。日中の気温は28度前後と暖かく半袖で過ごすことができ、南の島のゆったりとした環境の中で気持ちがリフレッシュするような開放感を味わうことができました。

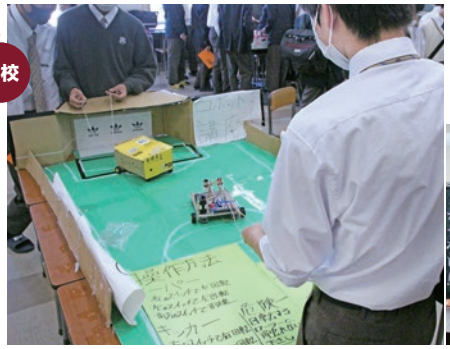
今年のテーマは「それでも僕は走り続ける」

中学 高校

文化祭

11月3日（火・祝）の文化の日に、恒例の文化祭を開催しました。今年は新型コロナウイルス感染症予防の観点から在校生のみでの開催となりました。

今年の文化祭のテーマは「それでも僕は走り続ける」です。文化祭は本館にて、プロジェクトワークや部活動の展示発表、実演が行われました。



©宝塚歌劇団

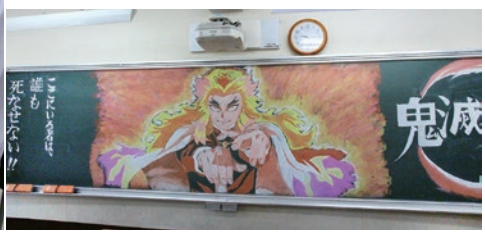
美しさと麗しさに魅了され

芸術鑑賞会

中学 高校

令和２年度の芸術鑑賞会は、11月12日（木）宝塚大劇場を貸し切りで行われました。

演目は、アカデミー賞で歌曲賞、作曲賞にノミネートされた1997年公開のアニメーション映画「アナスタシア」に着想を得て制作されたミュージカル『アナスタシア』。2017年の初演から2019年3月までブロードウェイでロングラン上演され、2020年春に上演された日本公演に続いて、ついに宝塚歌劇版として登場した話題作。生徒たちは、宙組タカラジェンヌたちの美しくエレガントな容姿と華麗な演技、そして圧倒的な歌唱力に終始魅了され続けていました。



コロナ対策をしながらの体育祭

inラクタブドーム（大阪府立門真スポーツセンター）

みんな一丸で大盛り上がり

中学

10月10日（土）、前日の台風の影響により1時間遅れで第26回大阪桐蔭中学校体育祭を開催しました。今回の体育祭では、保護者も含め無観客で、出場する際は手袋をし、観客席に戻る時はアルコール消毒をするなど、コロナウイルスの対策をして実施しました。楽しみにしていた学校行事ということもあり、生徒たちは協力して全力で八の字跳び競争や綱引きなどに挑みました。特にクラスの半分くらいが出場するクラス対抗20人リレーでは、出場する生徒も応援する生徒も一丸となって盛り上がりました。中学3年生女子のリズムダンスでは、テーマである「REALCE」の通り、華やかに、お互いを引き立たせる一体感のあるダンスで会場を魅了しました。

全員が熱く！楽しく！

高校

10月9日（金）、第38回大阪桐蔭高等学校体育祭を開催しました。本年度は無観客での実施となり、生徒は席の間隔を空けて座り、大きな拍手で応援をしました。学年で力を合わせて戦った綱引きや、白熱したクラス対抗リレーなど、会場は大いに盛り上がりました。2年女子のリズムダンスでは、「煌・魂・極」をテーマに一体感のあるダンスで会場を魅了しました。最終種目であるⅢ類クラス対抗リレー決勝の後、Ⅲ類吹奏楽部によるマーチング演奏で締めくくりとなりました。

NEWS&TOPICS

大阪産業大学

大学祭を開催
テーマは「響け笑動～そこのあなたも笑いな祭～」

令和2年10月31日(土)～11月1日(日)、第55回阪駒祭が開催されました。

当日は天候にも恵まれ、秋晴れの空の下、吹奏楽部の演奏やダンスサークルによるパワフルなパフォーマンスで大学祭が幕を開けました。

吉本興業の人気芸人3組(からし蓮根、さや香、たくろう)によるお笑いライブや、若者を中心に人気が高いアーティスト(おいしくるメロンパン、樋口大喜)による熱い演奏で、中央キャンパス中庭ステージ(GARDEN STAGE)を大いに盛り上げてくれました。

コロナ禍の中での開催となったため、規模の縮小や来場者数の制限等はありましたが、今年のテーマである「響け笑動(しょうどう)～そこのあなたも笑いな祭～」のもと、笑顔にあふれた大学祭となりました。

キャンパス内を綺麗にする清掃車が登場

教職課程受講の学生たちが創造的な製品開発をめざして公道を走ることができる小型のスイーパーを開発中です。道路建設会社との共同研究で高速道路の整備用ですが、観光地の狭い道路や水害後の道路清掃に役立てたいと意気込んでいます。

大阪産業大学附属高等学校

チアリーディング部が決勝戦で7位入賞

第30回全日本高等学校チアリーディング選手権大会に出場しました。

1月25日(土)に行われた予選では、チーム自己最高得点209点を獲得、59校中1位で通過し、予選を免除されたシード校11校を含め36校が出場した翌日の準決勝では、2回あったピンチもノーミスでこなし、7位で決勝進出を果たしました。昨年に続き2度目の出場となる決勝では完璧な演技で212点を獲得、決勝進出15校中過去最高成績の7位に入賞しました。

大阪桐蔭高等学校

記録会で日本高校新記録

第5回奈良市陸協記録会で、アツオビン ジェイソンさん(3年)が男子砲丸投に出場、19m28を記録し日本高校新記録・U20日本新記録となりました。また、これにより、新たにU20日本記録保持者のタイトルを獲得しました。

プロ野球ドラフト会議で7位指名

2020年プロ野球ドラフト会議において、仲三河優太さん(3年)が埼玉西武ライオンズから7位指名を受けました。

クラブ活動の記録

大阪産業大学

■バレーボール部

〇2020年関西大学バレーボール連盟1部リーグ戦（10/31～11/3）：第3位
（10/31西宇治体育館）大阪産業大学-関西学院大学：3-0勝ち　（11/1亀岡運動公園体育館）大阪産業大学-近畿大学：1-3負け　（11/3 亀岡運動公園体育館）【3位決定戦】大阪産業大学-京都産業大学：3-2勝ち
※全日本インカレ出場権獲得（関西地区から5枠）

■男子バスケットボール部

〇2020年度 関西学生バスケットボール2部リーグ戦（9/12～10/11）：**優勝**
（9/12和歌山ビックウェーブ）大阪産業大学-和歌山大学：86-43勝ち　（9/13ノーリツアリーナ和歌山）大阪産業大-京都大学　京都大学の棄権により不戦勝（9/19金岡公園体育館）大阪産業大学-神戸大学：91-72勝ち　（9/20金岡公園体育館）大阪産業大学-芦屋大学：104-52勝ち　（9/26八尾市立総合体育館）大阪産業大学-甲南大学：88-51勝ち　（10/3向日市民体育館）大阪産業大学-大阪商業大学：100-64勝ち（10/11枚方市立総合体育館）大阪産業大学-大阪教育大学：99-76勝ち　**※2部全勝優勝で1部昇格**

◆

関西学生バスケットボール連盟　個人賞
【最優秀選手賞】前田夢輝（2年）　【優秀選手賞】小栗瑛哉（2年）　【新人賞】髙木拓海（1年）

■スキー競技部

※中尾春香（1年）がU-20モーグル競技の強化選手候補に指定

大阪産業大学附属高等学校

■少林寺拳法部

〇令和2年度大阪高等学校総合体育大会（9/21大阪市天王寺スポーツセンター）【男子規定単独演武の部】**第1位**：川村昂生（1年）【女子規定単独演武の部】**第1位**：友澤理歩（1年）【男子自由単独演武級拳士の部】第2位：十河文哉（2年）【女子自由単独演武級拳士の部】第2位：下窪心暖（2年）、第3位：建元渚瑠（2年）【男子自由単独演武有段の部】**第1位**：河原真二（2年）、第2位：仁科天太（1年）【女子自由単独演武有段の部】第2位：片庭来美（1年）【男子自由単独演武3年生の部】**第1位**：小田翔（3年）、第2位：松岡一平（3年）、第3位：玉井良侑（3年）、第5位：中道亮（3年）【女子自由単独演武3年生の部】第2位：仁科一咲（3年）

■アメリカンフットボール部

〇令和2年度大阪高等学校総合体育大会（9/26～10/25大阪産業大学附属高等学校他）：**優勝**

■硬式野球部

〇令和2年度秋季近畿地区高等学校野球大会大阪府予選（8/29～10/4大阪シティ信用金庫スタジアム他）：ベスト8

■ソフトボール部

〇第75回大阪高等学校総合体育大会男子ソフトボールの部（9/6～9/12泉南なみはやグラウンド）：第2位

■サッカー部

〇スーパープリンスリーグ2020関西（8/29～10/4 J-GREEN堺他）：出場
〇第99回全国高校サッカー選手権大会（9/5～11/14J-GREEN堺他）：ベスト8

■水泳部

〇2020年度大阪高校新人水球競技大会水球男子の部（9/19～9/20茨木高校）：第2位
〇第4回近畿高等学校新人水泳競技大会（10/10～10/11秋葉山公園県民水泳場）：出場

■バドミントン部

〇第75回大阪高等学校総合体育大会（8/29～10/4清明学院高等学校他）【男子ダブルス】第3位：清原大翔（3年）、橋本凌佑（2年）

■バスケットボール部

〇第73回大阪高等学校バスケットボール選手権大会（9/20～11/1大阪市中央体育館他）：3回戦出場

■ゴルフ部

〇令和2年度大阪府高等学校ゴルフ選手権秋季大会（10/19、26太子カントリー倶楽部）【男子の部】10位タイ：荒木上総（3年）【女子の部】18位タイ：横山愛華（2年）

■卓球部

〇大阪高校春季大会新人大会（10/24～11/1丸善インテックスアリーナ会場他）：出場
〇令和2年度大阪高等学校総合体育大会（9/18～11/3大阪市立浪花スポーツセンター他）：出場

■テニス部

〇大阪高等学校秋季テニス大会（9/22～10/24蜻蛉池公園）【団体】ベスト8

■ラグビー部

〇第100回全国高等学校ラグビーフットボール大会大阪府予選第1地区（9/27～11/1東大阪市花園ラグビー場第3グラウンド他）：ベスト4

■バレーボール部

〇全日本高校選手権大会大阪府予選（9/26～10/25八尾市立総合体育館他）：ベスト8

■柔道部

〇第70回大阪高等学校新人柔道大会（11/7講道館大阪）【女子団体】第3位【－52kg級】第3位：森本胡桃（1年）【－63kg級】第3位：古賀優美子（2年）【78kg級超級】**第1位**：齋藤海憂（2年）

■自転車競技部

〇第1回東近江ジュニアクリテリウム（11/3東近江市ふれあい運動公園）【高校男子の部】**第1位**：矢萩悠也（3年）

■吹奏楽部

〇SKS吹奏楽録音コンテスト2020（8/20　関西吹奏楽指導者研究会へ提出）：**金賞　最優秀賞受賞**
〇マーチングフェスティバル2020大阪城ホール（11/8大阪城ホール）：出場

■演劇部

〇第70回大阪府高等学校演劇研究大会（10/31～11/1大阪市立咲くやこの花高校）**優秀賞、舞台美術賞**：岡谷美空（2年）

大阪桐蔭高等学校

■硬式野球部

〇2020年甲子園高校野球交流試合（8/17阪神甲子園球場）vs東海大相模：４－２で勝利
〇令和２年度秋季近畿地区高等学校野球大会大阪府予選（10/4大阪シティ信用金庫スタジアム）：**優勝**
〇高校野球秋季近畿大会（10/18～11/1わかさスタジアム京都）：準優勝
※プロ野球ドラフト会議　仲三河優太　西武7位指名

■ラグビー部

〇第71回近畿高校ラグビーフットボール大会大阪府予選大会（2/2東大阪市花園ラグビー場）：**優勝**
〇第71回近畿高校ラグビーフットボール大会（2/22京都府立山城総合運動公園）：ベスト４
〇第100回全国高等学校ラグビーフットボール大会大阪府予選第1地区（9/27～11/1東大阪市花園ラグビー場）：準優勝

■ゴルフ部

〇令和２年度　関西高等学校ゴルフ対抗戦（9/15ムロウ36ゴルフクラブ室生コース）【男子】4位：井関翔太（3年）・木下迪君（3年）・山下勝将（3年）・杉原亜規（1年）　【女子】7位：江河鈴（3年）・貞永茉白（3年）・向井千智（3年）・今西さくら（1年）
※井関、木下、山下、杉原、江河、貞永、向井、今西の8名は全国特別大会へ出場決定
〇令和２年度大阪府高等学校ゴルフ選手権秋季大会（太子カントリークラブ：男子10/19、女子10/26）【男子】杉原・大谷翼（1年）・井上耕太郎（1年）：**関西大会出場決定**
女子】今西・仲村美咲（1年）・西原莉乃（1年）：**関西大会出場決定**

■卓球部

〇令和２年度大阪高等学校優勝卓球大会（10/24～11/3インターハイ予選代替大会）**優勝**：山道和貴（3年）、準優勝：本田凌翔（3年）、第3位：立藤亜斗夢（3年）・奥野倫（3年）
〇令和２年度大阪高等学校１年生卓球大会
優勝：田村優星（1年）、第3位：富澤奏（1年）、第3位：宮本大輝（1年）
〇2021全日本卓球選手権大会（ジュニアの部）（10/24～11/3大阪府予選丸善インテックアリーナ大阪他）
優勝：藤原大輝（2年）、ベスト８：川村康人（2年）・富澤
〇令和２年度大阪高等学校新人卓球大会（学校対抗の部）：準優勝
〇第35回近畿高等学校新人卓球大会大阪府予選（11/3岸和田市総合体育館）**優勝**：藤原、第３位：川村、ベスト８：富澤、ベスト16：橋本恭一（2年）、廣瀬晴貴（2年）、田村　**※藤原、川村、廣瀬、橋本、富澤、田村の６名は近畿大会進出**

■男子サッカー部

〇第99回全国高校サッカー選手権大阪大会（11/7長居スタジアム）：ベスト４
〇高円宮杯U-18スーパープリンスリーグＢグループ関西：11月現在4位

■女子サッカー部

〇第75回大阪高校総合体育大会（10/17J-Green堺）：準優勝
〇第29回全日本高等学校女子サッカー選手権大会関西大会（11/1～8野洲川歴史公園サッカー場）：第3位
※（R3年1/3～10）第29回全日本高等学校女子サッカー選手権大会出場決定

■男子バスケットボール部

〇第73回大阪高等学校バスケットボール選手権大会（11/15おおきにアリーナ舞洲）【第3位決定戦】：第4位

■女子バスケットボール部

〇第７３回大阪高等学校バスケットボール選手権大会（11/14　おおきにアリーナ舞洲）：4位

■陸上競技部

〇大阪高校駅伝（11/3淀川河川敷コース）【男子】：5位　2時間17分04秒【女子】：2位　1時間14分28秒
※男女ともに10年連続での近畿高校駅伝出場が決定（兵庫県南あわじ市で開催）
〇第5回奈良市陸協記録会（11/3鴻ノ池陸上競技場）【男子砲丸投（6kg）】アツオビン ジェイソン（3年）（男子砲丸投19m28）**※日本高校新記録・U20日本新記録これにより、新たにU20日本記録保持者のタイトルを獲得**
〇全国高等学校陸上競技大会（10月23日～25日広島・広域公園陸上競技場エディオンスタジアム）【男子砲丸投（6kg）】**優勝**：アツオビン【女子5000㍍競歩】第4位：藤野楓（3年）
〇第104回日本陸上競技選手権大会（10/1～3新潟・デンカビッグスワンスタジアム）【男子砲丸投（7.26kg）】第８位：アツオビン
〇第53回近畿高等学校ユース陸上競技選手権（9/18～20大阪ヤンマーフィールド長居）【女子800㍍】第2位：尾崎真衣（1年）【女子砲丸投】第2位：小島怜（1年）

■吹奏楽部

〇コンクール・マーチングとも開催中止につき、演奏会・TV出演等で活躍中　NHK総合テレビ「第20回わが心の大阪メロディー」生出演他多数

■バレエ部

〇第70回全国高等学校スケート選手権（フィギュアスケート）大阪女子予選会（11/7丸善インテック大阪プール）第4位：妻鹿愛（2年）**※1月21日（木）～第70回全国高等学校スケート選手権（フィギュアスケート）出場決定**

■かるた部

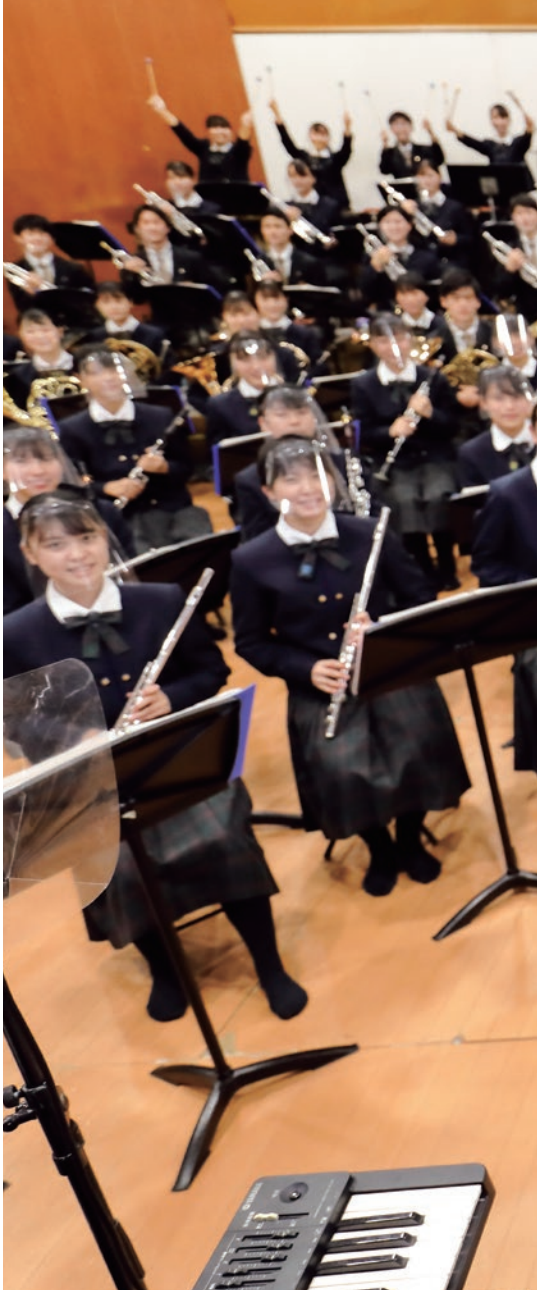
〇近畿総合文化祭予選　高1女子Ａ：2勝2敗　高1年女子Ｂ：1勝3敗

■英語弁論大会

〇第23回高校生弁論大会　入賞：塩谷彩乃（1年）、辻本真子（1年）、野水咲良（1年）、酒井乃朱（1年）
〇第16回大阪私学中学弁論大会　**優勝**：石田康樹（3年）

■プロジェクトワーク

〇第63回全国硬筆作品展覧会　大東市長賞：石垣日菜（1年）書道大賞：奥居瞳子（2年）



どんなときも、生徒とともに 心に響け！笑顔のシンフォニー

●大阪桐蔭高等学校吹奏楽部 総監督
梅田 隆司（うめだ たかし）

甲子園のスタンドで、コンサートで、また最近ではインターネットの動画配信でも、大阪桐蔭高校吹奏楽部は多くの人々に素晴らしい音楽を届け続けています。その部員たちを指揮する総監督の梅田隆司先生に、これまで歩んできた道や、ウィズ・コロナの時代の吹奏楽部の様子などについて聞きました。

うめだ たかし　大阪市生まれ。大阪音楽大学音楽学部声楽学科卒業後、大阪市立中学校で27年間、音楽科教員、吹奏楽部顧問を務める。2006年、大阪桐蔭高等学校教諭ならびに吹奏楽部総監督に就任。その年、吹奏楽部を全日本吹奏楽コンクール全国大会「銀賞」受賞へと導く。スポーツ応援、ステージ活動に力を入れ、生徒の自由を尊重する指導は、マスコミにしばしば取り上げられる。

ピアニストと掛け持ちの音大生時代

中学校で吹奏楽部に入部してから、私は音楽に夢中になりました。しかし私の音楽人生は、決して順風満帆だったわけではありません。父はもともと、白黒テレビのブラウン管を製造する町の工場主でしたが、時代の流れに押され廃業。その後は家電製品の販売修理業を細々と営みながら一家5人の生計を立てていました。中学卒業後、私は働きながら定時制商業高校に通い、人情味のある人々に出会い、人生の勉強をさせてもらいました。また、自ら得た収入で電子オルガンを購入し、仲間とバンドを結成。ピアノの個人レッスンも受けるようになりました。

念願だった音楽大学への入学を果たしたのは、24歳の春でした。高校を卒業してから、バンド仲間の紹介で夜の酒場のピアニストを務めるようになり、そこで稼いだお金を学費にあてて進学。声楽科に在籍し、実に楽しい大学生活を送りました。昼は学生、夜はキタの新地のピアノバーをかけもちしながら、高校時代、早朝から卸売市場に勤めていた時とは比べ物にならないほどの高収入を得ていたのです。でも「このままではいけない」という思いがずっとあり、27歳の時、母校の公立中学で音楽の常勤講師として勤めることを決めると、ピアノバーの仕事はスパッと辞めました。月収は5、6分の1になりましたが後悔はしませんでした。

その後、大阪の公立中学校での27年の教諭生活では、吹奏楽部の指導に熱中。休日返上で生徒たちとの練習に明け暮れる日々でした。そして、2006年からは大阪桐蔭高校音楽科の教諭となり、同時に創部2年目の吹奏楽の総監督として招かれました。

全員参加で、歌い踊るステージを

大阪桐蔭に来た時、私はそれまでの経験をもとに、3つの目標を掲げました。1つ目は「全員参加」。学年にも技量にも関係なく、全員がステージに立つことを重視し、音楽の落ちこぼれを作らないと決めました。だから、出場人数の

制限があるコンクールより、たくさんのコンサートに出場することをめざします。2019年には全国で90公演を行って、各地で音楽交流を実現しました。また保護者の負担を減らすため、部費をできるだけ抑えるように努力しています。

2つ目は「音楽を通して多くの人と交流を」。多くの人に喜んでもらえば、生徒たちはもっと頑張ろうと思い、スキルアップします。選曲もできるだけ幅広くして、全ての人が楽しめるように工夫しています。

3つ目は「歌う吹奏楽部で勇気を届ける活動を」。単なる吹奏楽を超えた、心に響く「シンフォニックオーケストラ」として、歌が歌えて言葉でも想いを伝えられる部員を増やしたいと考えています。

対面が無理ならリモート・コンサートを

2020年はウィズ・コロナの時代に突入し、全ての音楽活動が変わってしまいました。前代未聞の出来事に、私も悩みました。3年生が特に楽しみにしていた卒業公演は無観客で行い、公演を楽しみにしておられたお客様に聴いてもらいたいと、YouTubeでアップしました。一方、新1年生70名は、みんなと一緒に練習できない日が続きました。練習会場のキャパシティから、200名を超える合同練習は到底できない状況です。そこで、全員参加のリモート合奏に挑戦しました。

生徒は自宅で課題曲をダウンロードし、一人ずつで演奏。その様子をカメラの位置なども決めて録画し、送ってもらいます。その後、全員の動画を集めて編集し、YouTubeにアップしました。2020年の4月に出した星野源さんの「うちで踊ろう」は、100万回再生に迫る勢いでした。たくさんのコメントもいただくので、励みになりますね。このような動画配信が、保護者の方の協力もいただいて実現しているのは本当にありがたいことです。

また、瑛人さんの「香水」の配信では、大阪桐蔭らしい映像にしようと、生徒たちがダンスやソロの歌唱にも挑戦。まさに、歌って踊る吹奏楽部が実現しました。さらに来年の定期演奏会では、緒方洪庵を主人公にしたミュージカルを予定しています。しかし一方、実現しなかった企画もあります。実は今年7月にはイタリア公演が予定され、ローマ法王の前で演奏する予定だったのです。吹奏楽部は3年に一度、海外公演を実施してきたのに、今年の3年生は一度もその経験ができず、卒業となるのは寂しいことです。

生徒が堂々と意見を言える環境を

生徒を指導する際に心がけていることは、生徒が何でも言える環境を作ること。生徒たちが「目立つことをやって注意されるより、おとなしくしている方が、何も言われないからいい」などと考えて、小さくなってしまわないようにしたいのです。高校時代は一度きりなのですから、挑戦する心をもって自由に楽しんでほしい。生徒とともに、これから私ももっと音楽を楽しみます。そして、できるだけ多くの演奏機会を提供できるよう、最大限努力しようと思っています。

NeOSU
2020年
12月21日
発行

発行元：学校法人大阪産業大学 総務部 総務課
〒574-8530 大阪府大東市中垣内3丁目1番1号
TEL:072-875-3001㈹
https://www.osaka-sandai.org/